（別紙4-1）

NPO法人　福祉サービス評価機構Kネット

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0174100560		
法人名	有限会社　M&Y		
事業所名	グループホーム鶴ヶ岱		
所在地	釧路市鶴ヶ岱3丁目7番6号		
自己評価作成日	令和5年10月28日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0174100560-00&ServiceCd=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム鶴ヶ岱1階ユニットは2階に住宅型有料老人ホーム鶴ヶ岱があり、向かい棟に小規模多機能かっこうの宿が隣接しており、2階に同じグループホーム鶴ヶ岱があります。目の前には豊かな春採湖、ショッピングゾーンがある快適な生活環境となっております。、コロナ禍が続き散歩等の外出が出来ていませんでしたが、5類移行に伴いようやく普通の生活を取り戻し始めております。その為施設内で行う行事等で季節を感じられるよう工夫をしたり、利用者様同士で飾り付けの物を談話され作られ楽しまれている明るい環境です。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和6年2月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、春採湖に程近い豊かな自然が色濃く残る落ち着いた住宅街に位置している。近隣には学校やスーパーや衣料品、飲食店等が集まるモールもあり、至便な立地である。事業所は変則的な作りで、2棟の向かい合った建物の1階部分に1ユニットが入りその2階は有料ホームとなり、反対側の建物の2階部分に1ユニット、1階は同じ法人の小規模多機能が事業を展開し、離れているが合計2ユニット18人が同じ事業所として生活を共にしている。コロナが5類へ移行となった5月以降、法人、職員間で制限の見直し・解除を行い、引き続き感染防止対策を講じながら、お祭りや行事での地域住民との交流、日常的な外出支援等を再開させている。次年度は更に外出や外泊の枠を広げ、禍前のような地域、家族との交流の機会作りを検討している事から、実現に期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 グループホーム鶴ヶ岱	事業所理念を、日常業務や職員会議を通し職員間で共有し実践に繋げている。	法人の介護理念が定められており、施設長を中心に申し送りや会議の場で、理念に沿った考え方を共有出来ているか、定期的に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域行事の参加や行動が制限されあまり交流が出来なかった。	地域行事への協力、市の認知症普及・啓発事業・研修への参加等、地域貢献の一端を担いながら制限の解除を行い、地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やご家族さまへの会議報告書や通信の中で発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の影響より対面会議は1回にとどまり、その後は文章会議となった。資料に対して電話、文書等ご意見をいただき、サービスに向けて活かして行ける様気をつけている。	家族、地域代表、行政の協力を得て定例で開催している。運営状況や現状の問題点が論議されており、議事録を家族へ送付、外部へはホームページ等で周知し、広く意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは、日常業務を通し情報交を行い指導や助言を得ながら協力関係が築けるよう取り組んでいる。	行政窓口とは、各種の情報交換や地域的な支援体制の問題で連携して役割を担っており、地域包括支援センター主催の研修・活動への参加や、地域高齢者や事業所の状況について、窓口と情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が中心となり、外部研修・内部研修を通し禁止対象となる具体的行為を正しく理解し、抑制や拘束とならぬよう気を配ってている。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。虐待を含めた全利用者の現状の確認と、不適正ケアの事例検討や予防方法等、研修を行いながら拘束虐待等はあってはならないケアとして認識、確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部、外部の研修を通し高齢者虐待防止法について学ぶと共に会議での申し送り等で情報の共有を行い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要に応じ、制度の活用に向けた理解、支援を為ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改定の際は十分に説明を行い理解、納得が得られるように努め、同意書などの文書を残している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の希望や意見などを話しやすい環境づくりに努めている。外出ならドライブであるとか感染防止を行い面会など取り入れることが出来る事柄から運営に反映している。	面会は職員間で検討し、感染防止に留意・工夫しながら居室を開放し、意見聴取の機会を持っている。また、ホームだよりに写真を添えて、個別の生活状況・健康状態について伝えている。	家族からの意見を参考に、行事以外の日常的な外出の様子等を詳細に伝えることを検討していることから、進展に期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談などで、意見や要望・提案を聞く機会をもうけ運営に反映為ている。	申し送りや日業業務内の場で提案や意見を聞き取り、職員との関係を維持している。また、管理者による個別面談で意見やアイデア、工夫について運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況や努力を把握し、勤務状況を把握し給与水準労働時間、やりがいなどで、各自が向上心が持てるよう職場環境の整備に努め、他社と比較しても劣ることがなく安心して勤務できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量やケアの実績を把握し、資格取得にむけたサポートや内外の研修を受ける機会を周知し、積極的に向上心が持てるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や地域ケア会議が新型コロナウイルス感染症の影響でリモート主流となり、会社内の他事業所管理者が集まる席で相互間の活動やサービス状況を知ることで互いに質の向上が図れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供を開始する際は本人の生活歴や心身の状況を話し合い、困っていることや不安に思うことなど聞き取り本人が安心して生活出来る信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人やご家族から情報を聞き取る際には、不安や要望などから必要とする支援を見極め、柔軟に対応できるよう要望などに耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族から情報の収集に努め必要としている支援を見極め柔軟に対応出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員が暮らしを共にする者として良い関係作りが出来る様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の通信やその他体調報告や日々の出来事を連絡を取り合い、ご家族と本人の絆を大切にしながら職員とご家族が共に支え合っていけるよう関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を理解し、関係が途切れてしまわないよう支援しているが新型コロナウイルス感染症のため可能な限りという支援に努めている。	春以降、コロナの発生状況に合わせ、馴染みの場所や希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て、想いに添える様、柔軟に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合う利用者との関わりを増やし笑顔や笑い声が増えるよう努めている。トラブルが有る場合は職員が見守り支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係性を大事にしご家族からの近況を知らせていただくなど、こちらから関係を断ち切る事が無いようフォローし努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや希望、意向を把握し、できるだけ本人の意向に添った生活になるよう支援しているが新型コロナウイルス感染症の影響で困難な場合は別な希望を添う様に努めている。	終末期を含めた個々の意向や希望の聞き取りに注力している。困難な場合は、家族の意見も参考にしながら本人本位の生活となるよう、申し送りや会議等の場で協議し、応えられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時からの生活歴や生活環境、サービス利用の経過状況等把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の暮らし方、心身状況、有する力等の現状を、生活記録や職員間の連絡ノートを活用して情報の共有が出来る様努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やカンファレンス会議のほか、センター方式を利用して現状に即した意見やアイデアを出し合い、本人を含めた必要な関係者の意見も取り入れながら介護計画を作成している。	利用者本位を基本に本人、家族、医療機関等の意見を反映し、計画作成担当者が原案を作り、職員間でモニタリング結果と合わせて検討して、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調や日々の様子を記録に残しケアの実践内容や結果を職員間で共有し、介護計画の手直しや追加など見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やが家族の状況を把握しその人らしい生活が出来る様、柔軟な支援やサービスを提供出来る様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かし楽しみにしている外出支援や買い物同行などが、5類移行に伴い復活始めている。町内での散歩支援から始めており、豊かな気持ちを持てるよう支援為ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族、医療機関と連携をとりながら、適切な医療を受けられるよう事業所とかかりつけ医が関係性を築き努めている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。協力医療機関からの訪問診療時や配置の看護師から助言を得て職員間で共有し、家族にも詳細に伝えている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の暮らしの中で得た情報や気づきを職場内の看護師に伝え、相談や受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、安心して治療が出来る様病院関係者やご家族と情報交換や相談に努めている。また病院の医療相談室などの関係作りにも気を配っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、週末期にむけたあり方については、入所時に始まり早い段階から本人・家族と話し合いを行い事業所で出来る事、出来ない事などを説明し方針を共有して医療関係者と共に支援している。	看取りに関する指針をもとに、あらかじめ話し合い家族の意向を確認している。また、カンファレンスにて終末期の関わりなど話し合い、ご家族にも相談し、方向性を出している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え、全ての職員が応急手当や、初期対応の訓練をキャリアパス、講習を通し実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、その都度振り返りで情報の共有を為ている。色々な災害を想定し繰り返しの研修、訓練、方法を身につけ地域との協力体制を築いていく。	法人としてBCPを策定し、定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。現在、法人の他事業所、地域との相互の協力体制や役割を再度、職員間で検討している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や誇りを尊重し、自尊心を傷つけないよう言葉かけには気をつけて対応している。	職員は日々の接遇や言葉使い、望ましいケアについて職員本位の表現とならぬよう定期的に話し合っている。不適切と思われる対応については、都度、その場で改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、思いや希望を伝えたり自己決定出来るよう声掛けをして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを尊重し出来るだけ希望に沿って支援出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人ひとりの好む洋服を把握し、季節に合ったおしゃれや身だしなみを整えれるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみながら、準備や片付けを職員と共に個々の持てる力を活用している。また個人の好みや配膳に気を配って居る。	食事は個々の嗜好に合うよう、食べやすさ、盛り付けに留意している。下膳、食器拭き等のお手伝いをお願いしたり、行事食、手作りのおやつの提供、出前等、食事時が楽しみとなるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態により病院より指示が出ている場合もあるので、量やバランス、形態等に気を配り、食事摂取が出来る様よう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア介助の必要な利用者は食事毎に全介助・及び声掛け誘導支援を為ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を増やし、排泄の失敗を少なく出来る様自立にむけた支援を為ている。	職員は個々の心身の状況や排泄パターンなどをチェック表を活用して共有し、トイレでの自立支援に取り組んでいる。衛生用品のサイズ感等、定期的に身体に合ったものに見直す機会を設けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、飲食物の工夫や運動の働きかけと共に医師より下剤の処方をして頂き、看護師と服用相談を行いながら、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しめるよう、要望やタイミングに合わせ入浴して頂けるよう支援為ている。浴室での入浴が出来なくなった方には、体調等をみながら全身清拭での対応とさせて頂いている。拒否がある方は無理強いすることなく、個々に沿った支援を行っている。	週2回以上を目標に時間帯や入浴回数等、利用者の希望に応じて、快適な入浴となるよう支援している。同性介助や担当職員、湯温等の希望も聞き取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じ、休息したり安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用為ている薬の効果や副作用に気を配り、服薬の支援と症状の確認、記録を残すなど器量との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴から、力を活かした役割分担を行っている。好きな楽しみごとをレクなどにとりいれ気分転換が図れるよう支援為ている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の影響ため,外出支援は出来て居なかったが、5類に移行後は家族の面会や散歩支援を徐々に以前の生活に戻り始めている。	緩和後は感染防止に留意しながら、散歩や買い物等、個別対応にて可能な限り、外出が出来るよう支援している。今年度はコロナ禍で自粛していた行事等を職員間で話し合い、感染防止に留意しながら再開させた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る利用者は居なく、これからお金を所持したり使える様に、出来る事の支援をしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がご家族に連絡を希望されることはなかった。手紙のやり取りが出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は快適に過ごせるよう、光や風。温度などにも配慮為ている。生活感や季節感を出せるよう壁の展示物にも気を配っている。	共用空間は程良い広さで、温・湿度や換気、テレビ音や照明、眩しさも個々の様子を見て都度、調整している。清潔に配慮し、壁や天井に季節の装飾を掲示し、落ち着いてゆったり過ごせるよう、それぞれの心地よい居場所感を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性を考え、食卓椅子の配置を為ている。談話などで、そのままソファーに移動しての時間もあったり、他利用者の居室を訪問する場面もあり、できるだけ自由に生活していただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・ご家族と相談し、本人が使い慣れた物や、好みの物を居室に置くことで、居心地がよく過ごせるよう提案・工夫を為ている。	本人の安心できる環境を整えるために、入居前の自宅の様子を理解し、動線やペットの配置を検討している。思い入れのあるものが持ち込まれ、家族写真や趣味の物を手元に置いて、自分らしく安心して暮らせる環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの出来る事、分ることを把握し、安全に配慮為ながら廊下、トイレ居室等まで手摺りを伝って歩いて頂き、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫為ている。		